

有床義歯技工学 全部床義歯（実習） シラバス

概要

単位

3単位（必修）

開講

第1学年 135時間

担当教員

相馬 七海（5年）

授業計画

授業科目概要

- ・無歯顎の特徴を理解し、損なわれた形態、機能および審美を回復するために用いる全部床義歯の製作方法を理解する。

学習目標（一般目標）

- ・全部床義歯の知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を修得する。

学習目標（到達目標）

- ① 個人トレーの製作
 - ・外形線が正確に記入できる。
 - ・リリーフ、スペーサーのワックス操作が正確にできる。
 - ・レジン圧接がきれいにできる。
 - ・レジンの研磨が正確にできる。
- ② 咬合床の製作
 - ・外形線が正確に記入できる。
 - ・レジン圧接がきれいにできる。
 - ・咬合堤を正確に製作できる。
- ③ 咬合器装着
 - ・咬合平板を用いたスプリットキャスト法による咬合器装着ができる。
- ④ 人工歯排列、歯肉形成
 - ・咬合理論に準じた排列ができる。
 - ・審美的、形態的に良好な歯肉形成ができる。
- ⑤ 埋没、重合
 - ・正確な埋没操作ができる。
 - ・適正な餅状期での填入ができる。
- ⑥ 研磨
 - ・外形線通りの形態に形態修正ができる。
 - ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。

成績評価方法

- ① 各実習物の評価 90%
 - ② 実習態度 10%
- ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90%
- ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%

学修成果

【評価方法】

優	：100～80点	到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績
良	：79～70点	到達目標を十分に達成している優秀な成績
可	：69～60点	到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績
不可	：59点以下	到達目標を達成していない成績
評価対象外	0点	試験未受検

【注意事項】

- ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点）
- ・未提出は評価対象外（0点）とする。
- ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。

授業スケジュール

- 1-11h：個人トレー製作
- 12-21h：咬合床製作
- 22-78h：上下FD①製作
- 79-115h：上下FD②製作
- 116-135h：蠟義歯製作

予習

- ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。

復習

- ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。

指定教科書

- ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）
- ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

概要

単位

3単位（必修）

開講

第1学年 135時間

担当教員

実務経験のある教員
渋谷 聡（2年）

授業計画

授業科目概要

・欠損した部位の口腔の形態と機能を回復・改善するための部分床義歯の基礎技工技術を学ぶ。

学習目標（一般目標）

・部分床義歯の知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を修得する。

学習目標（到達目標）

- ① 個人トレーの製作
 - ・外形線が正確に記入できる。
 - ・リリース、スペーサーのワックス操作が正確にできる。
 - ・レジン圧接がきれいにできる。
 - ・レジンの研磨が正確にできる。
- ② 咬合床の製作
 - ・外形線が正確に記入できる。
 - ・レジン圧接がきれいにできる。
 - ・咬合堤を正確に製作できる。
- ③ 咬合器装着
 - ・咬合平面板を用いたスプリットキャスト法による咬合器装着ができる。
- ④ 人工歯排列、歯肉形成
 - ・咬合理論に準じた排列ができる。
 - ・審美的、形態的に良好な歯肉形成ができる。
- ⑤ 維持装置の基本設計ができる。
- ⑥ 基本維持装置を製作できる。
- ⑦ 基本連結子を製作できる。
- ⑧ 埋没、重合
 - ・正確な埋没操作ができる。
 - ・適正な餅状期での填入ができる。
- ⑨ 研磨
 - ・外形線通りの形態に形態修正ができる。
 - ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。

成績評価方法

- ① 各実習物の評価 90%
- ② 実習態度 10%

成績評価基準

- ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90%
- ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%

学修成果

【評価方法】

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 優 | : 100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 |
| 良 | : 79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 |
| 可 | : 69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 |
| 不可 | : 59点以下 | 到達目標を達成していない成績 |
| 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 |

【注意事項】

- ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点）
- ・未提出は評価対象外（0点）とする。
- ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。

授業スケジュール

- 1-11 h : 個人トレー製作
- 12-21 h : 咬合床製作
- 22-80 h : 上下PD①製作
- 81-120 h : 上下PD②製作
- 121-135 h : 基本維持装置製作

予習

- ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。

復習

- ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。

指定教科書

- ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）
- ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

歯冠修復技工学 前歯（実習） シラバス

概要

単位

2単位（必修）

開講

第1学年 90時間

担当教員

実務経験のある教員

渋谷 聡（2年）

授業計画

授業科目概要

・前歯部におけるテンポラリークラウン、個歯トレー、レジン前装冠による審美的修復物の一連の作業を修得する。

学習目標（一般目標）

・補綴物の製作を通して、製作方法や補綴物の用途、特徴、材料の性質等を理解する。

学習目標（到達目標）

- ① 作業用模型の製作
 - ・石膏操作が正確にできる。
 - ・鋸入れが正確にできる。
 - ・歯型トリミングが正確にできる。
- ② 咬合器装着
 - ・正確な咬合器装着ができる。
- ③ ワックスアップ
 - ・最終補綴物の形態を理論の基にワックスで再現できる。
- ④ 埋没
 - ・正確な埋没操作ができる。
- ⑤ 鋳造
 - ・遠心鋳造機の操作ができる。
 - ・ブローパイプの還元炎を使用し適切な鋳造ができる。
- ⑥ 研磨
 - ・ワックスアップ時の形態を損なわずに研磨ができる。
 - ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。
- ⑦ 工程に従いレジンの基本築盛ができる。
- ⑧ 目標とする歯の形態修正ができる。
- ⑨ 審美性を考慮した補綴物が製作できる。

成績評価方法

- ① 各実習物の評価 90%
- ② 実習態度 10%

成績評価基準

- ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90%
- ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%

学修成果

【評価方法】

優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績
良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績
可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績
不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績
評価対象外 0点 試験未受検

【注意事項】

- ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点）
- ・未提出は評価対象外（0点）とする。
- ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。

授業スケジュール

1-20 h : テンポラリークラウン製作
21-30 h : 個歯トレー製作
31-90 h : レジン前装冠製作

予習

- ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。

復習

- ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。

指定教科書

- ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版）
- ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

概要

単位

1単位（必修）

開講

第2学年 45時間

担当教員

相馬 七海（5年）

渋谷 聡（2年）

今村 幸四郎（2年）

授業計画

授業科目概要

・臨床応用に即した基礎技術内容の習得。

学習目標（一般目標）

・臨床応用を目的として全部床義歯では人工歯排列と歯肉形成を部分床義歯では大連結子と各種維持装置について基礎技術の確立を目的とする。
・臨床応用を目的として指示書による設計をもとに製作できることを目標とする。

学習目標（到達目標）

・臨床的な人工歯排列、歯肉形成ができる。
・臨床を想定した維持装置と大連結子が製作できる。
・歯科技工指示書を理解し製作できる。

① 各実習物の評価 90%

② 実習態度 10%

成績評価基準

① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90%

② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%

学修成果

【評価方法】

優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績

良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績

可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績

不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績

評価対象外 0点 試験未受検

【注意事項】

・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点）
・未提出は評価対象外（0点）とする。
・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。

授業スケジュール

1-20 h : 人工歯排列、歯肉形成

21-45 h : 維持装置、大連結子製作

予習

・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。

復習

・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。

指定教科書

・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）
・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

概要	授業計画
<p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 45時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 相馬 七海（5年）</p>	<p>授業科目概要 ・1年次の部分床義歯の応用技術として金属床の知識、製作方法を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・修得した部分床義歯製作に関する知識と技術を生かしながら、新たな体験製作として金属床義歯の製作を行う。</p> <p>学習目標（到達目標） ・金属床の特徴が説明できる。 ・金属床の各部位の名称・特徴が説明できる。 ・部分床義歯とは違う方法のワックスアップが製作できる。 ・ステップに沿った金属床の鏡面研磨ができる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-45h：設計からワックスアップ、メタルフレーム製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p>

概要	授業計画
単位 2単位（必修）	授業科目概要 ・臨床応用に即した基礎技術内容の習得。
開講 第2学年 90時間	学習目標（一般目標） ・前歯、臼歯に用いられる歯冠修復物の種類の中から一般臨床に多く用いられる修復物について、臨床応用を目的として基礎技術の確立を目的とする。
担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李	学習目標（到達目標） ・臨床用模型での全部金属冠、ブリッジの蠟型が製作できる。 ・指示書による設計を短時間で能率的に製作できる。
	成績評価方法 ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10%
	成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%
	学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。
	授業スケジュール 1-30h : 上下全部金属冠の蠟型製作 31-60h : 上顎ブリッジの蠟型製作 61-90h : 下顎ブリッジの蠟型製作
	予習 ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。
	復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。
	指定教科書 ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

歯冠修復技工学（実習2） シラバス

概要	授業計画
単位 2単位（必修）	授業科目概要 ・ 審美性に優れている前装冠、ジャケットクラウン、陶材焼付金属冠の製作実習を行い 審美をより追求し製作方法を習得する。
開講 第2学年 90時間	学習目標（一般目標） ・ 陶材の性質、取り扱いについて理解した上で、陶材焼付鑄造冠の製作を行う。
担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李	学習目標（到達目標） ・ 陶材の性質や陶材焼付鑄造冠の製作手順、製作上の注意点を十分に理解し製作できる。
	成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%
	成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%
	学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、 到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・ 未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・ 未提出は評価対象外（0点）とする。 ・ 必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。
	授業スケジュール 1-25 h : レジン前装冠（作業用模型から最終仕上げ） 26-50 h : ジャケットクラウン（作業用模型から最終仕上げ） 51-90 h : 陶材焼付金属冠（作業用模型から最終仕上げ）
	予習 ・ 事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・ 常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。
	復習 ・ 実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・ 取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。
	指定教科書 ・ 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・ オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

顎口腔機能学（実習） シラバス

概要	授業計画
時間数 1単位（必修）	授業科目概要 ・咬合の理解と基準点や基準平面と咬合器との関係および半調節性咬合器の適切な使い方を習得する。
開講 第2学年 30時間	学習目標（一般目標） ・顎口腔系を構成する諸要素の機能や特徴を理解し、生体に調和した修復物を適切に回復、維持するための基礎となる下顎位や下顎運動、歯の接触様式および咬合器について習得する。
担当教員 実務経験のある教員 今村 幸四郎（2年） 相馬 七海（5年） 渋谷 聡（2年）	学習目標（到達目標） ・顎口腔系の形態や機能、基準平面、下顎位、下顎運動、歯の接触様式、咬合様式、および咬合について説明できる。 ・半調節性咬合器を用いた作業ステップと操作方法が説明できる。
成績評価方法 ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10%	成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90% ③ 受講態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%
学修成果 【評価方法】 ・評価項目1～4の達成度により評価する 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。	
授業スケジュール 1-3 h : 講義 4-7 h : 作業模型製作 8 h-21 : フェイスボウにより咬合器装着 22-27 h : チェックバイト採得 28-30 h : 顎路調整	
予習 ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。	
復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。	
指定教科書 ・最新歯科技工士教本 顎口腔機能学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）	

概要	授業計画															
<p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 45時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李</p>	<p>授業科目概要 ・前白歯部におけるメタルコア、インレーおよび全部金属冠の応用技術を学ぶ。</p> <p>学習目標（一般目標） ・前白歯に製作するメタルコア、インレーおよび全部被覆冠に関する知識や技工操作法を理解し、臨床に必要である精度や作業スピードについて実習を通してレベルアップを図り、効率よく丁寧に、かつ機能的な補綴物の製作ができることを目的とする。</p> <p>学習目標（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 作業用模型の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・石膏操作が正確にできる。 ・鋸入れが正確にできる。 ・歯型トリミングが正確にできる。 ② 咬合器装着 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な咬合器装着ができる。 ③ ワックスアップ <ul style="list-style-type: none"> ・最終補綴物の形態を理論の基にワックスで再現できる。 ④ 埋没 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な埋没操作ができる。 ⑤ 鋳造 <ul style="list-style-type: none"> ・遠心鋳造機の操作ができる。 ・ブローパイプの還元炎を使用し適切な鋳造ができる。 ⑥ 研磨 <ul style="list-style-type: none"> ・ワックスアップ時の形態を損なわずに研磨ができる。 ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。 ⑦ 白歯におけるレジン前装ができる。 ⑧ ワンピースキャスト法と鑲付け法の手順が説明できる。 <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10% <p>成績評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10% <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; padding-right: 10px;">優</td> <td style="width: 15%; padding-right: 10px;">：100～80点</td> <td>到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>：79～70点</td> <td>到達目標を十分に達成している優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>：69～60点</td> <td>到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>：59点以下</td> <td>到達目標を達成していない成績</td> </tr> <tr> <td>評価対象外</td> <td>0点</td> <td>未提出</td> </tr> </table> <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。 <p>授業スケジュール</p> <p>1-20h：メタルコア、インレー製作 21-45h：全部金属冠製作</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。 <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校） 	優	：100～80点	到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績	良	：79～70点	到達目標を十分に達成している優秀な成績	可	：69～60点	到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績	不可	：59点以下	到達目標を達成していない成績	評価対象外	0点	未提出
優	：100～80点	到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績														
良	：79～70点	到達目標を十分に達成している優秀な成績														
可	：69～60点	到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績														
不可	：59点以下	到達目標を達成していない成績														
評価対象外	0点	未提出														

歯科技工実習（全部床義歯） シラバス

概要	授業計画
時間数 3単位（必修）	授業科目概要 ・1年次の基礎を基に全部床義歯の製作技術の確立と臨床的模型への応用を目的とする。
開講 第2学年 135時間	学習目標（一般目標） ・1年次に修得した知識と技術を基に、臨床的無歯顎模型を使用して手技の速さと正確さおよび応用力を身につけるとともに、各課題を自己の知識と技術により完成させる。
担当教員 実務経験のある教員 今村 幸四郎（2年） 相馬 七海（5年） 渋谷 聡（2年）	学習目標（到達目標） ・基本技術において各課題の指示を理解し適切に製作することができる。 ・臨床的模型への応用は、模型製作から義歯の研磨完成までの技法の確立を実習で実施しながら各課題を自己の知識と技能で完成できる。
成績評価方法 ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%	成績評価方法 ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%
成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%	成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%
学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。	学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。
授業スケジュール 1-10h : 上下FD①製作 11-15h : 個人トレー製作 16-24h : 咬合床製作 25-56h : 上下FD②製作 57-96h : 上下FD③製作 97-129h : 上下FD④製作 130-135h : 実習講義	授業スケジュール 1-10h : 上下FD①製作 11-15h : 個人トレー製作 16-24h : 咬合床製作 25-56h : 上下FD②製作 57-96h : 上下FD③製作 97-129h : 上下FD④製作 130-135h : 実習講義
予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。	予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。
復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。	復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。
指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）	指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

歯科技工実習（部分床義歯） シラバス

概要

単位

2単位（必修）

開講

第2学年 90時間

担当教員

実務経験のある教員

渋谷 聡（2年）

今村 幸四郎（2年）

相馬 七海（5年）

授業計画

授業科目概要

・歯が欠損した口腔の形態と機能を回復・改善するための部分床義歯の応用加工技術を学ぶ。

学習目標（一般目標）

- ・部分床義歯の知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を習得する。
- ・歯科技工に必要な材料、器具、製作方法を理解し、技能を習得する。
- ・金属床義歯の基本となる知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を習得する。
- ・患者の口腔内へ装着するに相応しい義歯の形態を適切に判断し、表現することができる。

学習目標（到達目標）

- ・各課題を自己の知識と技能で完成できる。
- ・各課題の指示を理解し、製作することができる。
- ・製作課題を期限内に完成できる。
- ・実習内容について、自主的に学習できる。
- ・機材の特性や取り扱い方法を理解し、応用できる。

成績評価方法

- ① 実習課題の評価 90%
- ② 実習態度 10%

成績評価基準

- ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90%
- ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点） 10%

学修成果

【評価方法】

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 優 | ： 100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 |
| 良 | ： 79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 |
| 可 | ： 69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 |
| 不可 | ： 59点以下 | 到達目標を達成していない成績 |
| 評価対象外 | 0点 | 未提出 |

【注意事項】

- ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点）
- ・未提出は評価対象外（0点）とする。
- ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。

授業スケジュール

- 1-30h：PD①製作
- 31-60h：PD②製作
- 61-90h：PD③製作

予習

- ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。
- ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。

復習

- ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。
- ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。

指定教科書

- ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）
- ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

概要	授業計画
<p>時間数 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 30時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 相馬 七海（5年） 今村 幸四郎（2年） 渋谷 聡（2年）</p>	<p>授業科目概要 ・舌側弧線装置・ホーレーの保定装置を製作し基本技術を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・舌側弧線装置、ホーレーの保定装置を製作し、製作手順や製作上の注意点を理解し製作する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・動的矯正装置、保定装置の目的、用途、製作方法について説明できる。 ・舌側弧線装置、ホーレーの保定装置の製作方法を修得し製作できる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-15 h : 舌側弧線装置製作 16-30 h : ホーレーの保定装置製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p>

概要	授業計画
<p>時間数 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 30時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 相馬 七海（5年） 今村 幸四郎（2年） 渋谷 聡（2年）</p>	<p>授業科目概要 ・クラウンループ保険装置、スペースリゲーナーを製作し基本技術を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・クラウンループ保険装置、スペースリゲーナーの製作を行い、製作手順、製作上の注意点をよく理解し製作する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・各種保険装置、スペースリゲーナーの目的、用途、製作方法について説明できる。 ・クラウンループ保険装置、スペースリゲーナーの製作方法を修得し製作できる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-13 h : クラウンループ保険装置製作 14-30 h : スペースリゲーナー製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p>